

千葉県立図書館行動計画（平成30～令和2年度）の評価

1 総括（自己評価）

「千葉県立図書館行動計画」の実施結果（重点項目（8項目）の令和2年度目標値に対する達成状況）については、達成できたものが3項目、達成できなかったものが5項目という状況であった。ただし、達成できなかった項目についても計画初年度や中間年には達成できていた項目もあり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるところが大きかったといえる。

一方、市町村立図書館や県立学校等への貸出冊数など、新型コロナウイルス感染症拡大前から減少傾向がみられるものもあり、今後も引き続き市町村立図書館や県立学校等のニーズを踏まえた取組が必要と考えている。

また、数値としては現れにくい部分であるが、新たな取組として「図書館から世界(ニュース)が見える」の創刊、「新型コロナウイルス感染症（関連リンク集）」「新型コロナウイルス対策のために学校がお休みのみなさんへのリンク集」の作成、県出先機関や個人への郵送貸出、郵送による資料貸出券の交付申込みといったサービスの実施や推進を図った部分もあり、3年間の大きな成果であると考えている。

2 課題及び今後の取組について

令和2年度までの実施状況等を踏まえ、各取組の推進に努める。特に以下の取組については、引き続き検討・推進を図っていくべき課題であると考えている。

- 市町村立図書館等や県立学校等に対する支援については、資料の貸出しや相談事業の推進に努める。また、市町村立図書館等のニーズを踏まえた蔵書構築に努める。
- 新館整備をにらんだ物流体制、最後の1冊保存体制については、市町村立図書館等の考え方などを確認、整理し、方向性等について検討を進める。
- 研修受講者の満足度は比較的高いが、研修への参加機会の拡充や図書館職員の資質向上を図るため、研修内容のアーカイブ化についても検討を進める。
- 子どもの読書活動の推進については、子どもの読書活動推進計画（第4次）に基づき、市町村立図書館等との連携を図り、サービスの推進に努める。
- 電子書籍の導入については、非来館型サービスの推進を図るため、導入の可否や対象等について検討を進める。また、デジタル化についても資料の劣化状況や利用者ニーズを踏まえて、計画的に推進を図っていく。
- 障害者サービスについては、読書バリアフリー法等を踏まえるとともに、時代の要請に合わせたサービスの開発（オンラインでの遠隔対面朗読等）に努める。
- より積極的な広報・PRの推進として、ホームページやツイッターによる発信に努めるとともに、ブランディングについても研究を進める。

【図書館協議会としての総評】

計画後期において、新型コロナウイルス感染症が目標数値に大きく影響を及ぼしたが、郵送による利用など非来館型の県民サービスの推進や、オンラインによる研修の実施など、逆に機会として捉えて事業を実施したことは評価できる。

一方、子どもたちへの読書支援では、従来の対面式により効果をあげている事業もある。事業により、オンラインと対面式でより効果的な方法で実施してほしい。

あらゆる媒体を駆使して、県立図書館を県民の方に知ってもらえるよう、情報発信など広報には一層努めていただきたい。

千葉県立図書館行動計画(平成30～令和2年度)の実施状況及び自己評価一覧

※目録値に対する達成状況凡例 ○:達成 ×:未達成

役割・機能	重点項目	取組	計画期間における主な取組(実施状況)	評価指標	実績値			目標値に達成状況	達成状況等についての説明・評価
					R2 目標値	H30	R1		
1 図書館ネットワークの発展	(1) 市町村立図書館等への支援の強化	【市町村立図書館等への貸出し、相談事業等の推進】 ・市町村立図書館等を通じた貸出しについて広報を実施した。(H30) ・毎年、教育機関を対象とした研修会等の開催を実施した。 ・市町村立図書館等を通じた団体貸出用十冊文庫(701タイトル)所蔵の整備を継続し、読書グループ案内チラシを作成、配布した(R1)。また、情報の共有 ・毎年全市町村を訪問し、図書館の運営等についての調査相談を行う。 ・及び開館後のサービスタテックを調査し、ホームページに掲載した。	・市町村立図書館等を通じた貸出しの広報用ポスター「あなたに本を届けるために」(300部)を作成した。(H30) ・毎年、教育機関を対象とした研修会等の開催を実施した。 ・市町村立図書館等を通じた団体貸出用十冊文庫(701タイトル)所蔵の整備を継続し、読書グループ案内チラシを作成、配布した(R1)。また、情報の共有 ・毎年全市町村を訪問し、図書館の運営等についての調査相談を行う。 ・及び開館後のサービスタテックを調査し、ホームページに掲載した。	市町村立図書館等への貸出冊数	75,000	72,468	69,077	62,946	市町村立図書館等への貸出冊数については、3年間を通じて、目標値に届かなかった。 新型コロナウイルス感染症による県内図書館の休館の影響もあるが、目標値の8割方の貸出しは維持した。 R2年度の利用者アンケートでは、蔵書の充実に関して、貸出・送迎場所の拡充の要望が多かった。今後は、冊数だけでなく、市町村立図書館からのリクエスト資料や、県民の資料・情報要求の分析、購入図書の見直し、納入を早めるなど、利便性向上についての改善も課題である。 県内の最後の1冊保存体制について、市町村立図書館が活動しやすいものとなるよう、県内図書館や公共図書館関係団体の意見を十分聞きながら、千葉県での協力保存の方向性や課題について検討していく。
		【新館における物流体制の検討】 ・現状の課題等について市町村立図書館等に聴取し、新館整備に向けて検討を進める。 ・県内最後の1冊保存体制の検討 ・国内の先行事例について調査を行う。 ・現状の課題等について市町村立図書館等との情報交換を進める。	・新館における物流体制の検討については「公共図書館・公民館図書等読書施設の実態調査」を実施し、各自治体内資料搬送状況の把握を行った。また、今後実施予定の「県内市町村立図書館等読書施設への支援に関するアンケート」の質問項目の検討を行った。 ・1館集約後の物流体制については、3館物流担当会議で高校への配送方法及び県立図書館資料の受取・送迎場所の拡張可能性を検討中である。	市町村立図書館等への貸出冊数	90.0%	90.6%	90.6%	94.5%	研修受講者の満足度
2 図書館職員の資質向上	(1) 図書館職員研修センター機能の強化	【研修機会の拡充】 ・研修結果の分析をし、研修プログラムの充実を図る。 【研修機会の拡充】 ・開催方法を検討し、地域別開催を実施する。	・新任職員、児童・レファレンス・障害者・課題解決支援の各研修を実施した(延べ59回開催)。 ・各研修時のアンケート結果により研修ニーズを把握し、内容の充実を図った。 ・中央図書館主催研修事業は県文化会館、中央博物館等を会場として実施した。また、新任職員研修会を地域別に開催した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、一部の研修会について遠隔研修や分散開催を実施した。	研修受講者の満足度	90.0%	90.6%	90.6%	94.5%	研修受講者の満足度については、目標値を4.5ポイント上回った。 研修ニーズの把握に努め、内容の充実を図ったほか、特にR2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策としてオンラインでの遠隔研修を実施し、遠隔地からの講師の招聘と全県的な受講が可能になったことも、満足度向上の一因になったものと考ええる。 研修内容のアーカイブ化についても、先行事例の研究と課題の精査を図りながら適切な構築方法を探っていく。

役割・機能	重点項目	取組	計画期間における主な取組(実施状況)	評価指標	R2 目標値	実績値			目標値に対する達成状況	達成状況等についての説明・評価
						H30	R1	R2		
子どもの読書活動の推進	(1)	地域の子どもの読書環境整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> 【読み聞かせ講座の実施】 ・図書館未設置市町村等で読み聞かせ講座を実施する。 ・講師養成のためのカリキュラムについて研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティア入門講座を図書館未設置市町村等の計7自治体において実施した。(延べ182名参加 鴨川市、大網白里市、真金市、いすみ市、長南町、多古町、館山市)。 ・さわやかちばらばら民プラザの読み聞かせ講座の書面開催に際し、パワーポイントを活用するなど、参加者が理解しやすい講師用資料を作成し、講師養成のためのカリキュラム研究の一助とした。 	読み聞かせ講座の受講者数	80	105	54	23	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関する情報提供については、他機関との連携が少しずつ行われるようになっており、引き続き連携の可能性を探り、広げていく。 ・県立学校等での読み聞かせも含め、地域ボランティア等の育成方法について市町村立図書館等とより一層の連携を図っていく。また、児童書の網羅的収集による児童サービス支援の検討を進めていく。
		学校図書館への支援の強化	<ul style="list-style-type: none"> 【県立学校等への貸出し、相談事業等の充実】 ・県立学校等の相互貸借について実態調査を進める。 ・要望の多い貸出セットの重複購入を検討する。 ・生徒向け読み聞かせ講座、図書館活用講座等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管内高校及び特別支援学校への運営相談、貸出資料を活用した授業の体験や学校訪問等の機会を捉え、相互貸借についての実態調査を行うとともに、未登録校へは新規登録のための事業説明を行った。 ・要望や指導要領改定を鑑み、新規・改訂計1327冊)の貸出セットを整備し、3年間で計707件、23,051冊の利用となった。 ・高等学校において保育等への進路を希望する生徒や図書委員会活動への支援のため、生徒向け読み聞かせ講座に職員を講師として派遣した。 	県立学校等への貸出冊数	31,000	32,999	24,359	18,841	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度は目標値を達成したが、R1年度と2年度は目標値を達成しなかった。特にR2年度は、学校再開後も授業時数の関係から図書を使っていた授業にまで至らなかったものと思われる。 ・学校での資料活用方法について、ホームページでの発信、貸出セットの新規・改訂の整備などを行うとともに、教員等のニーズを汲み取り、新しい学習指導要領に合わせたサービスを推進する。 ・学校の図書委員会を取材した情報発信や、「しよ部っ!」～中高生の本だな～の開設などヤングアダルトへの取組に着手しており、引き続きサービスの研究、実践を進めていく。 ・特別支援学校訪問講座支援については、「図書館の使い方」授業など、読み聞かせや運営相談からの新たな展開があった。今後もニーズと支援方法を探りながら図書支援を推進していく。
	(2)									

役割・機能	重点項目	取組	計画期間における主な取組(実施状況)	評価指標	R2 目標値	実績値			目標値に対する達成状況	達成状況等についての説明・評価			
						H30	R1	R2					
課題解決支援図書館	(1)	<p>【課題解決支援サービスの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法律情報支援サービス、医療情報支援サービス、シニア支援情報サービス等を推進する。 ・個人への郵送貸出サービスを実施する。 ・行政課題等の解決に資する資料の収集、提供する。 	<p>計画期間における主な取組(実施状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法律情報支援サービス、くらしに役立つ法律・判例情報講座を県内市町村図書館を会場として実施した。(中央) ・医療情報支援サービス・H30年度に国立がんセンター寄贈のがんに関する資料を設置。R2年度からプロジェクトチームによりH25年度のサービス開始から今後を見据えた振り返りに着手した。(西部) ・シニア支援情報サービス、「はつらつライフなび」コーナーで関連展示実施。 ・個人への郵送貸出サービスをH30年9月から開始、R2年度末までに、162件426冊の利用があった。 ・R2年度末までに県庁への情報提供サービスは57部署から1,693冊の利用があり、そのうち347冊を出先機関への資料郵送サービス(H30年6月開始)により提供した。 	<p>課題解決支援のための情報発信件数</p> <p>112</p>	<p>90</p>	<p>103</p>	<p>87</p>	<p>×</p>	<p>課題解決支援のための情報発信件数については、目標値を達成しなかった。</p> <p>H30年度とR1年度は目標値を達成したが、R2年度はやや目標値を下回った。</p> <p>集客事業を開催できなかったことに伴うブックリストの作成減等が影響したが、時事情報等をまとめた「図書館から世界(ニュース)がくる」の創刊、「新型コロナウイルス感染症(関連リンク集)」「新型コロナウイルス対策のために学校がお休みのみなさんへのリンク集」の作成、「Twitter」の投稿等により、時宜にかなった情報提供に努めた。</p> <p>県出先機関への郵送貸出しや個人への郵送貸出しを始めるとともに、郵送による資料貸出券交付申込みに向けた検討・実施を進めた。</p> <p>課題解決支援に有用な商用データベースを比較検討し、令和元年度に3種を新たに導入するとともに、講座・研修会等での普及に努めた。</p>				
		<p>【レファレンス事例の一般公開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供を進める。 <p>【県民向け講座の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館活用講座、データベース活用講座等を実施する。 <p>【時事問題等に関する新たな情報提供サービスの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時事問題や地域の課題等に関する資料の紹介、ブックリスト等の作成、提供を行う。 	<p>レファレンス協同データベースに事例を172件(千葉県関係は5-(1)に別掲)登録した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録事例の被参照件数及び年間登録数により、国立国会図書館長から同事業への貢献に対する礼状を12年連続で受領した(中央)。 <ul style="list-style-type: none"> ・各館の特長を活かし、以下の県民向け講座を実施した。 ・案の花のライブラリー活用講座 ・くらしに役立つ法律・判例情報講座、データベース活用講座(中央) ・健康・医療情報講座、サイエンスカフェ(西部) ・はつらつライフ講座、歴史講座、図書館ナビ(東部) <ul style="list-style-type: none"> ・各館で時宜にかなった展示を行い、ブックリストを作成した。 ・新たな情報提供サービスとして、R1年度「図書館から世界(ニュース)が見える」を開始し合計15号(千葉県関係は5-(1)に別掲)刊行した。 ・新型コロナウイルス感染症に関し、「新型コロナウイルス感染症(関連リンク集)」「新型コロナウイルス対策のために学校がお休みのみなさんへのリンク集」を作成した。 	<p>90</p>	<p>112</p>	<p>90</p>	<p>103</p>	<p>87</p>	<p>×</p>	<p>課題解決支援のための情報発信件数</p> <p>112</p>	<p>90</p>	<p>103</p>	<p>87</p>

役割・機能	重点項目	取組	計画期間における主な取組(実施状況)	評価指標	R2 目標値	実績値			目標値に対する達成状況	達成状況等についての説明・評価
						H30	R1	R2		
千葉県に関する資料や情報の蓄積・継承	5	<p>【千葉県関係資料の体系的収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官公庁など関係部署への寄贈依頼を定期的に行う。 ・出版情報について新聞記事等により把握し、幅広い収集を行う。 【千葉県関係資料の体系的収集】 ・国立国会図書館レファレンス協同データベースのデータ提供や新聞雑誌記事索引、人名索引、デジタルアーカイブ、バスファンダーマ別リスト、目次情報など、千葉県関係の情報を収集し、データベースを整備する。 ・地図や郷土誌、県が編集発行した行政資料など利用者ニーズの高いものからデジタル化を進める。 ・国立国会図書館や他県の動向について調査を行い、デジタル化の指針を決定する。 【インターネット上の地域行政資料の動向等調査】 ・ポータルサイトの資料(初めからデジタルデータとして作成されたコンテンツ)やオープンデータ(二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータの)の収集、提供など、国内の動向について調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁ホームページや文書などで幅広く寄贈依頼を行うとともに、新聞記事や広報誌などで刊行情報入手、発行元への寄贈依頼により、千葉県関係資料の体系的収集に努めた。 ・千葉県資料受入数(H30年4月～R3年3月末現在) 購入1,001冊 寄贈5,829冊 合計6,830冊 ・千葉県関係として国立国会図書館レファレンス協同データベースに78件登録、バスファンダー77件作成、「令和元年房総半島合展等の報告書」一覧、などテーマ別リスト34件を追加し、「図書館から世界(ニュース)が広がる」として「地質時代「オハニアン」」を作成した。 ・千葉日報記事索引、歴史関係雑誌記事索引の入り、公開を継続し、R2年度には、「各市町村史人名索引」を新規公開した。 ・千葉県関係資料の中から刊行年が古い資料(地図等)を選定し、デジタル化作業を委託した。 ・千葉県関係資料のデジタル化の方向性について整理した。今後も計画的にデジタル化を進めていく。 ・次期電算システムの導入検討にあたり、電子的な形態の地域行政資料を当館のデジタルアーカイブに取り込み、発信できるように手法についての調査を行った。 ・インターネット上の情報について、印刷して受入・提供・保存した千葉県関係資料の冊数(H30年4月～R3年3月末現在)計480冊 	千葉県関係資料の体系的収集	20	38	43	39	○	<p>千葉県関係資料の体系的収集、保存に努めていく。</p> <p>また、今後県の花ライブラリーにおける各種ツールや情報の充実を図り、広報を進めていく。</p>
		<p>【関係機関と連携した事業の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館や文書館、さわやかからは県民プラザ等と連携して、展示、講座等を実施する。 ・関係機関が実施する講座等へ、職員を講師として派遣する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携して実施した展示、講座等は次のとおり。 ・文書館、歴史講座、地域行政資料研究会での展示 ・中央博物館企画展関連、おはなし会、関連展覧 ・講師招聘「サイエンスカフェ、歴史講座、児童サービス基礎研修会、課題解決支援サービス研修会」 ・千葉県博団公連携事業実行委員会：シンポジウム、セミナー ・松戸健康福祉センター：健康・医療情報講座 ・国保健康福祉センター：はつらつライフ講座 ・法務局：千葉法律事務所「くらし」役立つ法律判例情報講座 ・千葉県読書推進運動協議会：文芸講演会 ・出張・巡回展示連携先：県民生活・文化課、文化財課、文化協会、東総文化会館、市川市文学ミュージアム、科学道100冊委員会 ・新刊日記企画：歴史講座 ・旭いよいよ文芸賞「海へ」実行委員会(展示、会場提供) ・「読書感想画中央コンクール」千葉県入賞作品展示(会場提供) ・講師の派遣は次のとおり。 ・さわやかからは県民プラザ：読み聞かせ講座への講師派遣 ・おはなしからは県民プラザ「海へ」実行委員会(審査員派遣) 	連携事業の実施回数	10	18	25	13	○	<p>連携事業の実施回数については、3年間を通じて目標値を達成した。</p> <p>R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による事業中止から、過去2年に比べ連携事業の実施回数は少ないものの、目標値は達成した。実施回数については、連携先の事業状況によるところが大きい。多様な関係機関と講師派遣や招聘を行うことで、それぞれが持つ専門性を生かした事業を推進することができた。</p> <p>今後は展示リストに付加価値をつけて発信することにも注力していく。</p>
知の創造と循環を生み出す公共の場	6	<p>【関係機関との連絡調整会議の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館や文書館、さわやかからは県民プラザ等関係機関との情報共有を進める。 【オンラインブック、パブリック関連事業の実施】 ・関係機関と連携しながらオンライン関連資料を収集、提供し、展示など県民への広報普及に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央博物館、さわやかからは県民プラザ、文書館の担当者間で連携事業などについての意見交換会を開催した。 ・県立図書館所蔵のオンラインブック、パブリック関連資料の展示を行うとともに、オンラインブック、パブリックのホストタウンなど、自治体の相手国についての図書の展示や、自治体各職員のプレットの配布を行った。 ・オンラインブック、パブリック資料展示コーナーで利用した資料を元に巡回展示資料一式を作成し、県内図書館等へ貸し出した。 ・点訳絵本、録音図書等の作成を進めた。 ・点訳絵本10タイトル(中央) ・録音図書40タイトル ・テキストデータ530件(西部) ・県内図書館向け研修や県民向け講座等の充実を図った。 ・障害者サービス研修会(西部) ・障害者養成講座中級 ・読書支援機器活用講座(中央、西部)、サビエ図書館活用講座(中央) ・読書者のための資料デジタル化講座(西部) ・公共図書館の多文化サービスや、E-ラーニング・コミュニケーション「(知的障害者など日本語の理解に難しさがある人たちへのわかりやすい情報提供)をテーマとした研修を実施した。」 ・点訳絵本やさわやかからは県民プラザなど、資料を手に取りやすい形で集めた「リンドこの棚」の設置や、学校用貸出セット「国際理解」3セットの改訂を行った。 	録音図書の出出タイトル数	14,000	13,532	12,739	11,449	x	<p>録音図書の出出タイトル数は、3年間を通じて目標値を達成しなかった。達成率は8割であった。</p> <p>利用形態がサビエ図書館等からのダウンロードといったデータ利用に移行していることが影響した。なお障害者サービス研修会での職員研修、県民に対する読書支援機器活用講座等を通じて、サビエ図書館や障害者サービスの普及を図っている。今後とも作成した録音図書等のデータやサビエ図書館等に提供し幅広く利用に供することにも、市町立図書館等でのサービスの充実を図っていく。</p> <p>また、多言語・多文化サービスについても、日本語に難しさのある人たちへの情報提供として、やさしい日本語を推進することにも、他館事例を研究し、取り入れていく。</p>
		<p>【障害者用コンテンツの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点訳絵本、録音図書等の作成を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内図書館向け研修や県民向け講座等を充実させる。 	録音図書の出出タイトル数	14,000	13,532	12,739	11,449	x	<p>録音図書の出出タイトル数は、3年間を通じて目標値を達成しなかった。達成率は8割であった。</p> <p>利用形態がサビエ図書館等からのダウンロードといったデータ利用に移行していることが影響した。なお障害者サービス研修会での職員研修、県民に対する読書支援機器活用講座等を通じて、サビエ図書館や障害者サービスの普及を図っている。今後とも作成した録音図書等のデータやサビエ図書館等に提供し幅広く利用に供することにも、市町立図書館等でのサービスの充実を図っていく。</p> <p>また、多言語・多文化サービスについても、日本語に難しさのある人たちへの情報提供として、やさしい日本語を推進することにも、他館事例を研究し、取り入れていく。</p>